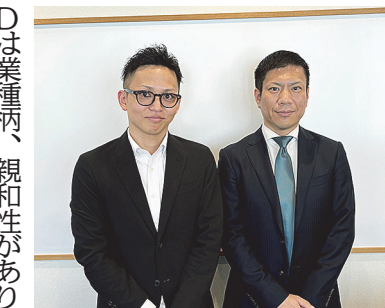


仏壇・墓石販売3社を統合

市場縮小でも勝ち残る

事業承継M&Aの なごやHD

事業承継M&A（合併・買収）を手掛ける、なごやホールディングス（HD）、本社名古屋市中区丸の内）は、買収した仏壇・墓石販売3社を統合する。市場縮小でも勝ち残るため、事務や営業活動の効率を上げ、樹木葬霊園を収益の柱に育成して持続力を高める。屋号をそのままに各社の営業店を残し、地域との関係性を継続しながら成長を目指す。



なごやHDの林社長（右）と高島氏

（近藤直樹）

Dは業種柄、親和性があり統合した方が持続性を増すと判断した。

計画では、財務・経理、人事、システム管理、宣伝、商品調達などのバックオフィス機能を統合し、経営効率を高める。3社の営業店で引き続き地域顧客向けに商品・サービスを提供するほか、樹木葬霊園の開発・運営を成長エンジンに育成する。

発して2031年3月期に14万所体制とし、売上高を現行の9億円から11億5千万円に引き上げる方針だ。高島氏は「古墳墓など新しい供養の形にもチャレンジする」と抱負を語る。なごやHDの林秀和社長は「3社はそれぞれの地域で長年、お客さまに支えられてきた。その歴史を尊重しながら、成長を持続させる」と話している。

なごやHDは、東海地方の中小企業を対象に事業承継M&Aを展開。価値ある企業を守り、地域社会に貢献することを使命とし、独立性や企業文化を尊重しながら存続支援を手掛けている。現在、仏壇・墓石販売を含め7社をグループ傘下に置く。5年後には10社に増やすことを目標にしている。

仏壇・仏具販売のぬし与仏壇店（桑名市）と宮本仏壇店（岐阜市）、墓石販売の中村石材店（伊勢市）の3社を7月1日付で統合する。新会社は資本金3千万円。社名は「みらい」で、ぬし与仏壇店本社を本社とする。なごやHD第一投資事業部副部長の高島卓氏が社長に就く。

3社は老舗で、それぞれの地域で長年、存在感を発揮していたが、後継者不足で事業環境も大きく変わったため、なごやHDに将来の存続を託した。人口減少や供養の多様化、墓じまいなどで仏壇・仏具、墓石市場が縮小する中、なごやH



統合後も3社の屋号、ブランドを残す

樹木葬は墓石の代わりに樹木を墓標として故人をしのぶ形式。一般墓より費用が安い上、墓の管理・承継負担を軽減でき、核家族化や少子化が進行する中、需要が伸びている。

現在、ぬし与仏壇店と中村石材店が愛知、三重県で計7カ所の樹木葬霊園を運営。統合後は岐阜県でも開

